

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300092	事業の開始年月日	2020年12月16日		
		指定年月日	2020年12月16日		
法人名	有限会社 マミーホーム				
事業所名	グループホーム梅の宮マミー ユニット名：さくら				
所在地	(〒 985-0077) 宮城県塩釜市梅の宮16番11号				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18	名	
		ユニット数	2		
自己評価作成日	2023年1月16日	評価結果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは海を一望できる高台にあり、避難場所にも指定されています。ご利用者様には、育ってきた街並みや海を眺めながら生活することによって、心が落ち着き穏やかに自分らしい生活を過ごして頂けるように支援しています。ご利用者様の性格やこれまでの生活状況を把握し、ホームでの役割を持つことによって不安なく安心して生活して頂けるように、職員一丸となって情報を共有し、統一したケアを心がけて支援しています。春～秋にかけて、敷地内の花壇で野菜やお花を育てており、水やりや草取りも一緒に行っています。また、ホームにはバスがあるため職員が運転するバスに乗って、定期的にドライブや外出を楽しまれたり、お買い物に出かけたり、併設のデイサービスのレクリエーション行事に参加し交流を図るなど、毎日楽しみがあり活動的に過ごして頂けるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年2月8日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

- 一、皆様の尊厳及び権利を尊重します。
- 二、皆様を平等に対応します。
- 三、自己の能力を磨きます。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

法人母体の「有限会社マミーホーム」は、2002年松島町に通所介護事業所の運営を開始した。現在、3つの通所介護事業所と宅老所やグループホームを運営し、レクリエーションや研修、入浴支援などで協力関係を築いている。「グループホーム梅の宮マミー」は2020年に開所し、眼下には塩釜の街並みや海を見渡すことができる高台の住宅街の一角に位置した、2ユニットの平屋建てのホームである。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は、理念を基に介護の質の向上を目指し技術の習得に努め、利用者のこれまでの生活を理解し、その人らしい生き方ができるよう、思いに寄り添ったケアを心掛けている。コロナ禍であっても利用者の楽しみを実現させるため、毎月の自然を愛でるドライブや近所へのドライブ、馴染みの場所への散歩等の支援を行い、地域との関係継続を図っている。また、生活にレクリエーションや口腔ケア、体操、ホームのテーマソングの合唱、脳トレなどを取り入れ、ホームでの生活が楽しく潤いのあるものになるよう工夫している。職員と家族の参加で看取りの研修を行い、家族の理解の下、尊厳のある安らかな最期を迎えられるような介護体制を目指している。管理者は、職員と常に意思の疎通を図り、職員の介護現場での精神的な負担を軽減するよう努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム梅の宮マミー
ユニット名	さくら

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム梅の宮マミー ）「ユニット名： さくら 」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に研修会を行っており、マミーホームの理念を職員に周知徹底しています。	「尊厳及び権利の尊重、平等な対応、自己能力を磨く」の3点の理念のもと、利用者がその人らしい生き方ができるよう傾聴を重視し、思いに寄り添ったケアを心掛けている。介護の質の向上を目指し、動画などの研修を通して技術の習得に努めている。定期的（4・8・12月）に理念について講義を行い、マニュアルなどで確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回行っている町内会の町内清掃へご利用者様と職員と一緒に参加し、草取りやゴミ拾い等取り組まれています。	地域の清掃（草取り）に利用者職員が参加して地域と交流を深めている。このことでホームの畑や花壇整備につながった。ボランティアの受け入れを再開し、芝居や歌、踊りなどを楽しんだ。デイサービスと合同の行事や入浴で利用者間の交流がある。町内会に加入し回覧や広報が届き、地域の子供会や母親クラブとの交流もある。ホームは認知症サポート研修の会場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大により、運営推進委員会はご家族様のみ参加され、ホームでの生活や活動の様子を報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み状況や活動内容など、ご利用者様の様子を報告し、質疑応答にて話し合いを行っています。	今年度は、会議を2回開催した。メンバーは1回目は市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、2回目は、家族12組、管理者と職員の参加で開催した。利用者の状況、活動報告や研修、事故報告を行った。2回目には、医師が看取りの講義を行い、看取りについて理解を深める機会になった。参加者からは運営に対し励ましの言葉や評価が寄せられている。	運営推進会議のメンバーを「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準」で定められている体制に整え、年6回の開催を目指し、報告の他、双方に意見を交換し合い、運営に生かすことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	塩釜市の担当者の方には、必要時連絡を取っており、相談やアドバイス等のご意見を頂いています。	市の担当者とは電話や時には出向いて、認知症の症状による困難事例の相談をしている。医療面でのアプローチやSOSネットワーク（高齢者が行方不明になった時に、警察だけでなく、地域の生活関連団体等が捜索に協力して、すみやかに行方不明者を発見保護するしくみ）に登録するなど、連携強化を行った。第三者が入ることで冷静な対応ができ、課題解決に繋がっている。市から研修案内が届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料をもとに職員研修を行っています。身体拘束の事例はありません。	身体拘束適正化の指針が整備されている。管理者や介護主任で年4回委員会を開催し、身体拘束に関する研修やマニュアルの確認、チェックリストで個々のケアの確認等を行うことで、周知徹底を図っている。外出傾向の強い利用者には一緒に散歩したり納得する声掛けを工夫している。SOSネットワークへの登録も行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料をもとに職員研修を行っています。虐待の事例はありません。	研修は、身体拘束をしないケアと合わせて実施している。特に言葉遣いについては徹底し、職員間でも確認し合いどのような声掛けが適切か都度検討している。少人数での研修などを通してコミュニケーションを図り、ストレスを抱え込まないよう、職員の心が折れないよう、細やかな対応に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料をもとに職員研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、契約事項についてしっかり説明しています。不安や疑問点については聞き取りを行うことと丁寧に説明することで、安心して納得して頂き、同意を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月毎にホームでのご様子を写真と文章でお知らせしています。またご意見やご要望に対してアンケートを取らせていただき、運営に反映させて頂いています。	年に1回家族アンケートを実施し、家族から要望や意見を聞いている。食事の内容や面会などの要望を運営に反映した。利用者から出された外出や食事、買い物などの要望を検討し、月1回の外出や買い物支援等を行った。毎月「マミーパラダイス」の情報紙を発行し、ホームでの様子を伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、随時職員と面談する機会を設け、意見を聞き取りしています。月1回のスタッフ会議、年2回の管理者と職員の面談は必ず設けています。	月1回事前に資料を配布し、スタッフ会議を行っている。新人職員には事前資料を説明する等工夫し、職員全員で話し合いができるよう取組み、活発な意見交換が行われている。業務時間や業務分担の見直し、情報共有の仕方等、多くの事例をもとに検討し改善された。年に2・3回個人面談を行い、人事考課とリンクし目標を一緒に考え、意欲をもって職務に当たれるよう励ましている。資格取得時には、費用やシフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい環境づくりを目指して、職員1人ひとりを大切にしています。定期的に職員同士の交流の機会を設けたり、スキルアップ向上のための資格取得や研修費負担等も支援しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップへの支援として勉強会の開催、外部研修への費用負担等を積極的に支援しています。研修等の情報を随時提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービス職員やご利用者様と交流する機会を設け、情報交換を行っています。外部研修では、他事業所の方々と意見交換や情報交換を行い、ホームに持ち帰って反映させることによって質の向上に努めています。	同法人の隣接するデイサービスに通う利用者や交流する機会を設けている。また、バスで松島のデイサービスにある温泉に出掛け楽しんでくることがある。法人内4施設間での人事異動があり、他職場を経験することで職員がレベルアップを図り自分の適性を見つける場ともなっている。同市内のグループホームと情報の共有を行っている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様のこれまでの生活状況や趣味・嗜好等を踏まえて利用者様に寄り添うことで、不安や要望を汲み取ります。傾聴しながらご本人の意思を尊重し、安心して生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に安心してご利用して頂けるように、不安や心配な事は予め丁寧に聞き取りを行っています。ご家族様の要望に合わせて定期的に連絡を取っており、丁寧なコミュニケーションを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にとって必要とされるサービスを提案し、様々なサービスを紹介することで、ご本人様・ご家族様と共に検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様と共に生活することで家族のような信頼関係の構築に努めており、ご本人の自分らしい生活を大切に支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらした際や電話連絡にて、ご本人様と一緒に話し合う機会を設け、ご本人様の思いや考えを共に伝えることでご家族様との絆を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止対策のできる範囲内で、知人や友人との面会や電話連絡等にて繋がりを保てるように支援しています。	家族や親戚とはオンラインや窓越しで面会している。訪問の理・美容もあるが馴染みの理・美容に出掛ける利用者もいる。遠足やドライブで近所や市場、自宅など馴染みの場所に出掛けている。近所の梅宮神社に散歩で出掛け地域の人と交流している。隣接するデイサービスとはレクリエーションや入浴等で交流する機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームで日常生活を共に過ごす中で、コミュニケーションだけでなく、家事や掃除等の作業を一緒に行うことによって、ご利用者様同士支え合う環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化により医療ケアのため退去となったご利用者様のご家族様とは、必要時連絡を取り合ったり、お話を伺ったりする等の支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、ご利用者様の要望や意向を把握し、職員同士で情報を共有し対応しています。ご利用者様とご家族様と定期的に面談・聞き取りを行い、ケアプランを作成しています。	日頃の関わりの中で、好きなことやしたいことなどを聴き取りケア会議等で共有し支援に活かしている。農家出身の利用者がホームの畑づくりを率先して行ったり、手先の器用な利用者が飾りづくりをしたりと日々の活動に活かしている。家族からはケアプランの見直しの時期や面会、電話で意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様へ聞き取りや、他事業者からの情報をアセスメントすることで、ご本人様の生活歴の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活の様子や状態の変化を観察し記録したものを情報共有し、現状の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご利用者様の状態を観察しモニタリングを行い、定期的に話し合いの場を設けています。ご本人様とご家族様の思いを尊重したケアプランの作成を行っています。	半年に1回、区分変更時や状態の変化に応じて介護計画を見直している。介護記録や職員の評価を基にカンファレンスし、家族の意向やかかりつけ医からの意見を基に、各ユニットの介護計画作成担当者が作成している。家族にはなるべく対面で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々様子を記録し、引継ぎの際には必ず申し送りを行い、情報共有に努めています。定期的に話し合いを行い、ケアプランの再確認や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、ご家族様の対応が困難な場合や急変時は職員がお連れしています。行事では、併設のデイサービスとの交流、同事業所の温泉入浴等も実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の会報や市の広報誌より情報を把握し、ご利用者様と共に安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の健康状態を観察し、ご家族様へ連絡しています。かかりつけ医や訪問診療の主治医の方々とは、情報を報告・共有し、連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援しています。	それぞれのかかりつけ医で健康状態を確認している。往診医がかかりつけ医の場合は、月2回訪問診療を受診している。他の人は家族付き添いを基本とし、受診時には連絡表とバイタル、食事量の記録の情報を提供し、受診結果や医師からのコメントを職員間で情報共有している。非常勤の看護師が週1回、また必要時に来所し、健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師がご利用様の体調や変化を観察し、ケアをしています。訪問診療や受診時は、日常の様子を伝えており、変化があった場合は随時看護師へ連絡し相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供と情報共有を随時行っています。退院時には、事前にカンファレンスを行うことで退院後の適切な対応に努めています。医療関係者と連絡をしっかりと取り合い、適切な情報を共有し合うことで、関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や病状管理の必要にご利用様とご家族様に対し、十分に説明を行い、話し合いを重ねることで、方針を共有しています。関係者の方々と連携を図りながら最後まで支援させて頂いております。	看取りに関する指針が整備され、入居時に家族に説明し、同意を得ている。終末期には、医師の指示のもと医療が必要な場合は訪問看護ステーションと連携しながら、尊厳を保ち安らかな最期を迎えられるよう配慮して取り組んでいる。家族や職員参加の看取りの研修を行い理解を深めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、定期的に研修を行っています。職員同士で協力し合い、落ち着いて適切な対応ができるように取り組んでいます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が定期的に災害時研修を行っています。マニュアルに従って、初期対応、避難誘導等の安全対策を身に付けています。当施設は避難場所にも指定されています。	災害対策のマニュアルが整備されている。市の福祉避難所となっており、年に2回、内1回は夜間想定避難訓練を実施し、全体の評価や推奨事項、反省点などを検討し次に繋げている。梅宮地区は防犯意識も高く、朝夕見守り隊が巡回したり、祭り時には防災を盛り込んで開催している。備蓄は1週間分確保している。感染症予防対策として消毒や換気、手洗い、マスク着用等を徹底して取り組んだ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格や意思を尊重し、プライバシーに配慮した呼び名、丁寧な声掛け、介助を心がけています。	年に1回研修を行いプライバシーの確保に努めている。特に言葉遣いや接遇に配慮した対応に努め、定期的に確認している。排泄介助時にはさりげない声掛けを行い、居室に入室する際は、必ずノックしたり声掛けし確認することを徹底している。利用者をお呼ぶときには基本、名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自分らしく生活できるように、趣味・嗜好を続けられるような環境作りを行っています。買い物の希望、飲み物やおやつ等の選択等の支援を実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせた起床時間や食事時間等、ご本人様のできる限り希望に添って支援しています。ご本人様のお話だけでなく、調子やペースに合わせた対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、ご利用者様らしい服装に着替え、身だしなみを整えられるように支援しています。2カ月に1回程度、訪問理美容室に来所して頂き、カットやカラー等のご希望するメニューを利用しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好きなものや食べたいものを聞き取り、購入したり手作りレク等で提供しています。また、食材のカットや後片付けのお手伝いも楽しみながら行って頂いています。	栄養バランスが考慮されている業者の献立を基本に、職員が輪番で調理している。利用者の希望を取り入れ、献立をアレンジしたり、部分変更したりして提供することもある。利用者は、野菜の下処理や洗い物、後片付け等、自分ができることを行っている。おせち料理や節分、ひな祭り等、毎月の行事食があり、誕生日には好きなおやつを提供し食事を楽しんでいる。誤嚥防止のための口腔ケアにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとりの好みや身体状況に合わせた食事を提供しています。食事量は毎日記録しており、食事量や水分量が低下した際は、職員間で情報共有を行い、継続した様子観察を実施します。必要時、食形態の見直しや医療機関へ報告・相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様一人ひとりの口腔状態に合わせた口腔ケア用品を準備し、ケアを実施しています。口腔ケアチェックは毎日記録しており、必要時には歯科と連携を取り、訪問診療を利用しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄状況に合わせたパットやオムツを使用しています。排泄チェック表を活用することで排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄ができるように定期的に見直しも行っています。	排泄チェック表を基に、日中は声掛けや定時交換を行い、夜間は、利用者の安眠を妨げないようタイミングを考慮し、交換や声掛けを行っている。便秘対策として牛乳やヨーグルトなどを摂取したり、排便を促す体操を取り入れている。必要に応じて医師から処方された薬を服用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、排便管理を行っています。個別に排便日数をカウントし、体調に合わせた下剤・座薬の管理、水分摂取の促し、乳製品の提供、定期的な体操を実施しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、あらかじめご利用者様へ体調や気分等をお声掛けし、ご本人様の希望に添った入浴ができるように支援しています。必要時、時間や曜日の変更、声掛けの工夫にて対応しています。ご希望の方には、同法人のデイサービスへ温泉外出の支援を行い、満足して頂いています。	循環型の個室と、機械浴の浴槽があり利用者の状態に応じて利用している。週2回の入浴を基本に、同法人のデイサービスの温泉を楽しむこともある。個々に合わせ湯温を調節し、順番を工夫して入浴している。入浴を嫌う利用者には声掛けの仕方を工夫したりスタッフを替えたり、タイミングに合わせて入浴できるよう努めている。浴室暖房でヒートショック防止に努め、体調不良の時は足浴や清拭などで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣や身体状況(病状・痛み)に合わせて環境を整え、休息時間を設けています。ご本人様の希望に合わせたベッドメイキングを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬剤師と常に連絡を取り合い、服薬について助言・相談等の連携を図っています。服薬状況は随時記録しており、変化が見られた際は職員間で情報を共有し、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を踏まえながら、特技・趣味・嗜好等の楽しみや生きがいを大切に支援しています。ご家族様に協力して頂きながら、できる限り一人ひとりのご希望に添った対応を行っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出掛けられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出掛けられるように支援している	天気が良い日は、近隣の散歩やドライブ等の外出支援を積極的に行っています。春～秋は、花壇でお花と野菜を育て、水やり作業も皆様で行って頂きました。職員で対応ができない場合は、必要時ご家族様の協力を頂きながら、ご希望に添えるように支援しています。	月に1回花見や新緑、あやめ祭り、蓮、紅葉狩りなどのドライブを行っている。週1回は近所をドライブしたり、気候の良い時はホームの周辺や近隣のデイサービス、梅宮神社等に散歩に出掛け、体力づくりにも繋げている。通院時には、家族と理・美容や買い物、外食、墓参りなどに出掛け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様は職員の付き添いにて、敷地内の自動販売機へ飲み物を買に行ったり、市内のスーパーへ買い物にお出掛けをしています。ご自分のお小遣いから支払いをして頂き、ご自身で好きなものを買う楽しみを持って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様よりご希望があった場合は、職員が仲介を行いながら、いつでもご家族様に電話をかけられるように支援しています。定期的にご家族様と電話で話すことで、安心される様子が見られています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、毎日ご利用者様と職員が一緒に清掃・消毒・整理整頓を行っています。快適な空間づくりのために、季節や天候に合わせた対応に注意しています。行事毎に皆様に壁紙や飾り絵等を製作し、季節を感じて頂けるような雰囲気づくりも行っています。	天井が高く、明るい広々としたホールには、テーブルやソファが置かれ利用者は思い思いに過ごしている。利用者と一緒に作成した日めくりカレンダーや時計は、見やすく常に確認できる。季節の飾りも利用者で作成している。大画面テレビでは映画やオンライン（ネットフリックス）を観ることができ、脳トレ体操等、多様なレクリエーションを取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、快適に過ごして頂くために、ご利用者様の意見や要望を取り入れながら配置を工夫しています。静かに過ごしたい方やソファでくつろぎたい方、仲の良い方とおしゃべりをしたい方など、皆様が自由に心地よく過ごして頂けるよう努めています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や、使い慣れた小物などをお持ちいただき、安心して過ごして頂けるように対応しています。ご利用者様の好みや過ごし方に合わせて、ご本人様とご家族様と相談しながら居室内の配置も工夫しています。	ベッド、エアコンが設置されている。利用者はテーブルやイス、テレビ、整理ダンス等、馴染みの物を持ち込み、写真や小物、花などを飾りその人らしい居心地のよい部屋にしている。居室は早番の職員が利用者と一緒に清掃し、清潔が保持されている。室温は、利用者に合わせて設定し、職員が確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が、快適に自立した生活を送って頂けるように、障害物等の安全対策を行い、移動時の動線に配慮しています。浴室・トイレの貼り紙や居室扉の写真掲示等、ご利用者様にわかりやすいように工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300092	事業の開始年月日	2020年12月16日		
		指定年月日	2020年12月16日		
法人名	有限会社 マミーホーム				
事業所名	グループホーム梅の宮マミー ユニット名：ひまわり				
所在地	(〒 985-0077) 宮城県塩釜市梅の宮16番11号				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18	名	
		ユニット数	2		
自己評価作成日	2023年1月16日	評価結果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは海を一望できる高台にあり、避難場所にも指定されています。ご利用者様には、育ってきた街並みや海を眺めながら生活することによって、心が落ち着き穏やかに自分らしい生活を過ごして頂けるように支援しています。ご利用者様の性格やこれまでの生活状況を把握し、ホームでの役割を持つことによって不安なく安心して生活して頂けるように、職員一丸となって情報を共有し、統一したケアを心がけて支援しています。春～秋にかけて、敷地内の花壇で野菜やお花を育てており、水やりや草取りも一緒に行っています。また、ホームにはバスがあるため職員が運転するバスに乗って、定期的にドライブや外出を楽しまれたり、お買い物に出かけたり、併設のデイサービスのレクリエーション行事に参加し交流を図るなど、毎日楽しみがあり活動的に過ごして頂けるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年2月9日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

- 一、皆様の尊厳及び権利を尊重します。
- 二、皆様を平等に対応します。
- 三、自己の能力を磨きます。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

法人母体の「有限会社マミーホーム」は、2002年松島町に通所介護事業所の運営を開始した。現在、3つの通所介護事業所と宅老所やグループホームを運営し、レクリエーションや研修、入浴支援などで協力関係を築いている。「グループホーム梅の宮マミー」は2020年に開所し、眼下には塩釜の街並みや海を見渡すことができる高台の住宅街の一角に位置した、2ユニットの平屋建てのホームである。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は、理念を基に介護の質の向上を目指し技術の習得に努め、利用者のこれまでの生活を理解し、その人らしい生き方ができるよう、思いに寄り添ったケアを心掛けている。コロナ禍であっても利用者の楽しみを実現させるため、毎月の自然を愛でるドライブや近所へのドライブ、馴染みの場所への散歩等の支援を行い、地域との関係継続を図っている。また、生活にレクリエーションや口腔ケア、体操、ホームのテーマソングの合唱、脳トレなどを取り入れ、ホームでの生活が楽しく潤いのあるものになるよう工夫している。職員と家族の参加で看取りの研修を行い、家族の理解の下、尊厳のある安らかな最期を迎えられるような介護体制を目指している。管理者は、職員と常に意思の疎通を図り、職員の介護現場での精神的な負担を軽減するよう努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム梅の宮マミー
ユニット名	ひまわり

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム梅の宮マミー ）「ユニット名：ひまわり」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に研修会を行っており、マミーホームの理念を職員に周知徹底している。	「尊厳及び権利の尊重、平等な対応、自己能力を磨く」の3点の理念のもと、利用者がその人らしい生き方ができるように傾聴を重視し、思いに寄り添ったケアを心掛けている。介護の質の向上を目指し、動画などの研修を通して技術の習得に努めている。定期的（4・8・12月）に理念について講義を行い、マニュアルなどで確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回行っている町内会の町内清掃へ、利用者様と職員と一緒に参加し、草取りやゴミ拾い等取り組まれています。	地域の清掃（草取り）に利用者と職員が参加して地域と交流を深めている。このことでホームの畑や花壇整備につながった。ボランティアの受け入れを再開し、芝居や歌、踊りなどを楽しんだ。デイサービスと合同の行事や入浴で利用者間の交流がある。町内会に加入し回覧や広報が届き、地域の子供会や母親クラブとの交流もある。ホームは認知症サポート研修の会場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大により、運営推進委員会はご家族様のみ参加され、ホームでの生活や活動の様子を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み状況や活動内容など、利用者様の様子を報告し、質疑応答にて話し合いを行っています。	今年度は、会議を2回開催した。メンバーは1回目は市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、2回目は、家族12組、管理者と職員の参加で開催した。利用者の状況、活動報告や研修、事故報告を行った。2回目には、医師が看取りの講義を行い、看取りについて理解を深める機会になった。参加者からは運営に対し励ましの言葉や評価が寄せられている。	運営推進会議のメンバーを「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準」で定められている体制に整え、年6回の開催を目指し、報告の他、双方に意見を交換し合い、運営に生かすことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	塩釜市の担当者の方には、必要時連絡を取っており、相談やアドバイス等のご意見を頂いている。	市の担当者とは電話や時には出向いて、認知症の症状による困難事例の相談をしている。医療面でのアプローチやSOSネットワーク（高齢者が行方不明になった時に、警察だけでなく、地域の生活関連団体等が捜索に協力して、すみやかに行方不明者を発見保護するしくみ）に登録するなど、連携強化を行った。第三者が入ることで冷静な対応ができ、課題解決に繋がっている。市から研修案内が届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料をもとに職員研修を行っています。身体拘束の事例はありません。	身体拘束適正化の指針が整備されている。管理者や介護主任で年4回委員会を開催し、身体拘束に関する研修やマニュアルの確認、チェックリストで個々のケアの確認等を行うことで、周知徹底を図っている。外出傾向の強い利用者には一緒に散歩したり納得する声掛けを工夫している。SOSネットワークへの登録も行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料をもとに職員研修を行っています。虐待の事例はありません。	研修は、身体拘束をしないケアと合わせて実施している。特に言葉遣いについては徹底し、職員間でも確認し合いどのような声掛けが適切か都度検討している。少人数での研修などを通してコミュニケーションを図り、ストレスを抱え込まないよう、職員の心が折れないよう、細やかな対応に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料をもとに職員研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、契約事項についてしっかり説明しています。不安や疑問点については聞き取りを行うことと丁寧に説明することで、安心して納得して頂き、同意を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月毎にホームでのご様子を写真と文章でお知らせしています。またご意見やご要望に対してアンケートを取らせていただき、運営に反映させて頂いています。	年に1回家族アンケートを実施し、家族から要望や意見を聞いている。食事の内容や面会などの要望を運営に反映した。利用者から出された外出や食事、買い物などの要望を検討し、月1回の外出や買い物支援等を行った。毎月「マミーパラダイス」の情報紙を発行し、ホームでの様子を伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、随時職員と面談する機会を設け、意見を聞き取りしています。月1回のスタッフ会議、年2回の管理者と職員の面談は必ず設けています。	月1回事前に資料を配布し、スタッフ会議を行っている。新人職員には事前資料を説明する等工夫し、職員全員で話し合いができるよう取組み、活発な意見交換が行われている。業務時間や業務分担の見直し、情報共有の仕方等、多くの事例をもとに検討し改善された。年に2・3回個人面談を行い、人事考課とリンクし目標を一緒に考え、意欲をもって職務に当たれるよう励ましている。資格取得時には、費用やシフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい環境づくりを目指して、職員1人ひとりを大切にしています。定期的に職員同士の交流の機会を設けたり、スキルアップ向上のための資格取得や研修費負担等も支援しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップへの支援として勉強会の開催、外部研修への費用負担等を積極的に支援しています。研修等の情報を随時提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	デイサービス職員や利用者様と交流する機会を設け、情報交換を行っています。外部研修では、他事業所の方々と意見交換や情報交換を行い、ホームに持ち帰って反映させることによって質の向上に努めています。	同法人の隣接するデイサービスに通う利用者や交流する機会を設けている。また、バスで松島のデイサービスにある温泉に出掛け楽しんでくるともある。法人内4施設間での人事異動があり、他職場を経験することで職員がレベルアップを図り自分の適性を見つける場ともなっている。同市内のグループホームと情報の共有を行っている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者のこれまでの生活状況や趣味・嗜好等を踏まえて利用者様に寄り添うことで、不安や要望を汲み取ります。傾聴しながらご本人の意思を尊重し、安心して生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に安心してご利用して頂けるように、不安や心配な事は予め丁寧に聞き取りを行っています。ご家族様の要望に合わせて定期的に連絡を取っており、丁寧なコミュニケーションを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にとって必要とされるサービスを提案し、様々なサービスを紹介することで、ご本人様・ご家族様と共に検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様と共に生活することで家族のような信頼関係の構築に努めており、ご本人の自分らしい生活を大切に支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらした際や電話連絡にて、ご本人様と一緒に話し合う機会を設け、ご本人様の思いや考えを共に伝えることでご家族様との絆を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止対策のできる範囲内で、知人や友人との面会や電話連絡等にて繋がりを保てるように支援しています。	家族や親戚とはオンラインや窓越しで面会している。訪問の理・美容もあるが馴染みの理・美容に出掛ける利用者もいる。遠足やドライブで近所や市場、自宅など馴染みの場所に出掛けている。近所の梅宮神社に散歩で出掛け地域の人と交流している。隣接するデイサービスとはレクリエーションや入浴等で交流する機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームで日常生活を共に過ごす中で、コミュニケーションだけでなく、家事や掃除等の作業を一緒に行うことによって、ご利用者様同士支え合う環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化により医療ケアのため退去となったご利用者様のご家族様とは、必要時連絡を取り合ったり、お話を伺ったりする等の支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、ご利用者様の要望や意向を把握し、職員同士で情報を共有し対応しています。ご利用者様とご家族様と定期的に面談・聞き取りを行い、ケアプランを作成しています。	日頃の関わりの中で、好きなことやしたいことなどを聴き取りケア会議等で共有し支援に活かしている。農家出身の利用者がホームの畑づくりを率先して行ったり、手先の器用な利用者が飾りづくりをしたりと日々の活動に活かしている。家族からはケアプランの見直しの時期や面会、電話で意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様へ聞き取りや、他事業者からの情報をアセスメントすることで、ご本人様の生活歴の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活の様子や状態の変化を観察し記録したものを情報共有し、現状の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご利用者様の状態を観察しモニタリングを行い、定期的に話し合いの場を設けています。ご本人様とご家族様の思いを尊重したケアプランの作成を行っています。	半年に1回、区分変更時や状態の変化に応じて介護計画を見直している。介護記録や職員の評価を基にカンファレンスし、家族の意向やかかりつけ医からの意見を基に、各ユニットの介護計画作成担当者が作成している。家族にはなるべく対面で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を記録し、引継ぎの際には必ず申し送りを行い、情報共有に努めています。定期的に話し合いを行い、ケアプランの再確認や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、ご家族様の対応が困難な場合や急変時は職員がお連れしています。行事では、併設のデイサービスとの交流、同事業所の温泉入浴等も実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の会報や市の広報誌より情報を把握し、ご利用者様と共に安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の健康状態を観察し、ご家族様へ連絡しています。かかりつけ医や訪問診療の主治医の方々とは、情報を報告・共有し、連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援しています。	それぞれのかかりつけ医で健康状態を確認している。往診医がかかりつけ医の場合は、月2回訪問診療を受診している。他の人は家族付き添いを基本とし、受診時には連絡表とバイタル、食事量の記録の情報を提供し、受診結果や医師からのコメントを職員間で情報共有している。非常勤の看護師が週1回、また必要時に来所し、健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師がご利用様の体調や変化を観察し、ケアをしています。訪問診療や受診時は、日常の様子を伝えており、変化があった場合は随時看護師へ連絡し相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供と情報共有を随時行っています。退院時には、事前にカンファレンスを行うことで退院後の適切な対応に努めています。医療関係者と連絡をしっかりと取り合い、適切な情報を共有し合うことで、関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や病状管理の必要にご利用者様とご家族様に対し、十分に説明を行い、話し合いを重ねることで、方針を共有しています。関係者の方々と連携を図りながら最後まで支援させて頂いております。	看取りに関する指針が整備され、入居時に家族に説明し、同意を得ている。終末期には、医師の指示のもと医療が必要な場合は訪問看護ステーションと連携しながら、尊厳を保ち安らかな最期を迎えられるよう配慮して取り組んでいる。家族や職員参加の看取りの研修を行い理解を深めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、定期的に研修を行っています。職員同士で協力し合い、落ち着いて適切な対応ができるように取り組んでいます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が定期的に災害時研修を行っています。マニュアルに従って、初期対応、避難誘導等の安全対策を身に付けています。当施設は避難場所にも指定されています。	災害対策のマニュアルが整備されている。市の福祉避難所となっており、年に2回、内1回は夜間想定避難訓練を実施し、全体の評価や推奨事項、反省点などを検討し次に繋げている。梅宮地区は防犯意識も高く、朝夕見守り隊が巡回したり、祭り時には防災を盛り込んで開催している。備蓄は1週間分確保している。感染症予防対策として消毒や換気、手洗い、マスク着用等を徹底して取り組んだ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格や意思を尊重し、プライバシーに配慮した呼び名、丁寧な声掛け、介助を心がけています。	年に1回研修を行いプライバシーの確保に努めている。特に言葉遣いや接遇に配慮した対応に努め、定期的を確認している。排泄介助時にはさりげない声掛けを行い、居室に入室する際は、必ずノックしたり声掛けし確認することを徹底している。利用者をお呼ぶときには基本、名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自分らしく生活できるように、趣味・嗜好が続けられるような環境作りを行っています。買い物希望、飲み物やおやつ等の選択等の支援を実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様に合わせた起床時間や食事時間等、ご本人様のできる限り希望に添って支援しています。ご本人様のお話だけでなく、調子やペースに合わせた対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、ご利用者様らしい服装に着替え、身だしなみを整えられるように支援しています。2カ月に1回程度、訪問理美容室に来所して頂き、カットやカラー等のご希望するメニューを利用しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好きなものや食べたいものを聞き取り、購入したり手作りレク等で提供しています。また、食材のカットや後片付けのお手伝いも楽しみながら行って頂いています。	栄養バランスが考慮されている業者の献立を基本に、職員が輪番で調理している。利用者の希望を取り入れ、献立をアレンジしたり、部分変更したりして提供することもある。利用者は、野菜の下処理や洗い物、後片付け等、自分ができることを行っている。おせち料理や節分、ひな祭り等、毎月の行事食があり、誕生日には好きなおやつを提供し食事を楽しんでいる。誤嚥防止のための口腔ケアにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとりの好みや身体状況に合わせた食事を提供しています。食事量は毎日記録しており、食事量や水分量が低下した際は、職員間で情報共有を行い、継続した様子観察を実施します。必要時、食形態の見直しや医療機関へ報告・相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様一人ひとりの口腔状態に合わせた口腔ケア用品を準備し、ケアを実施しています。口腔ケアチェックは毎日記録しており、必要時には歯科と連携を取り、訪問診療を利用しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄状況に合わせたパットやオムツを使用しています。排泄チェック表を活用することで排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄ができるように定期的に見直しも行っています。	排泄チェック表を基に、日中は声掛けや定時交換を行い、夜間は、利用者の安眠を妨げないようタイミングを考慮し、交換や声掛けを行っている。便秘対策として牛乳やヨーグルトなどを摂取したり、排便を促す体操を取り入れている。必要に応じて医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、排便管理を行っています。個別に排便日数をカウントし、体調に合わせた下剤・座薬の管理、水分摂取の促し、乳製品の提供、定期的な体操を実施しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、あらかじめご利用者様へ体調や気分等をお声がけし、ご本人様の希望に添った入浴ができるように支援しています。必要時、時間や曜日の変更、声掛けの工夫にて対応しています。ご希望の方には、同法人のデイサービスへ温泉外出の支援を行い、満足して頂いています。	循環型の個浴と、機械浴の浴槽があり利用者の状態に応じて利用している。週2回の入浴を基本に、同法人のデイサービスの温泉を楽しむこともある。個々に合わせ湯温を調節し、順番を工夫して入浴している。入浴を嫌う利用者には声掛けの仕方を工夫したりスタッフを替えたり、タイミングに合わせて入浴できるよう努めている。浴室暖房でヒートショック防止に努め、体調不良の時は足浴や清拭などで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣や身体状況(病状・痛み)に合わせて環境を整え、休憩時間を設けています。ご本人様の希望に合わせたベッドメイキングを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬剤師と常に連絡を取り合い、服薬について助言・相談等の連携を図っています。服薬状況は随時記録しており、変化が見られた際は職員間で情報を共有し、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を踏まえながら、特技・趣味・嗜好等の楽しみや生きがいを大切に支援しています。ご家族様に協力して頂きながら、できる限り一人ひとりのご希望に添った対応を行っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、近隣の散歩やドライブ等の外出支援を積極的に行っています。春～秋は、花壇でお花と野菜を育て、水やり作業も皆様で行って頂きました。職員で対応できない場合は、必要時ご家族様の協力を頂きながら、ご希望に添えるように支援しています。	月に1回花見や新緑、あやめ祭り、蓮、紅葉狩りなどのドライブを行っている。週1回は近所をドライブしたり、気候の良い時はホームの周辺や近隣のデイサービス、梅宮神社等に散歩に出掛け、体力づくりにも繋げている。通院時には、家族と理・美容や買い物、外食、墓参りなどに出掛け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様は職員の付き添いにて、敷地内の自動販売機へ飲み物を買に行ったり、市内のスーパーへ買い物にお出かけをしています。ご自分のお小遣いから支払いをして頂き、ご自身で好きなものを買う楽しみを持って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様よりご希望があった場合は、職員が仲介を行いながら、いつでもご家族様に電話をかけられるように支援しています。定期的にご家族様と電話で話すことで、安心される様子が見られています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、毎日ご利用者様と職員と一緒に清掃・消毒・整理整頓を行っています。快適な空間づくりのために、季節や天候に合わせた対応に注意しています。行事毎に皆様に壁紙や飾り絵等を製作し、季節を感じて頂けるような雰囲気づくりも行っています。	天井が高く、明るい広々としたホールには、テーブルやソファが置かれ利用者は思い思いに過ごしている。利用者と一緒に作成した日めくりカレンダーや時計は、見やすく常に確認できる。季節の飾りも利用者で作成している。大画面テレビでは映画やオンライン（Netflix）を観ることができ、脳トレ体操等、多様なレクリエーションを取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、快適に過ごして頂くために、ご利用者様の意見や要望を取り入れながら配置を工夫しています。静かに過ごしたい方やソファでくつろぎたい方、仲の良い方とおしゃべりをしたい方など、皆様が自由に心地よく過ごして頂けるよう努めています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や、使い慣れた小物などをお持ちいただき、安心して過ごして頂けるように対応しています。ご利用者様の好みや過ごし方に合わせて、ご本人様とご家族様と相談しながら居室内の配置も工夫しています。	ベッド、エアコンが設置されている。利用者はテーブルやイス、テレビ、整理ダンス等、馴染みの物を持ち込み、写真や小物、花などを飾りその人らしい居心地のよい部屋にしている。居室は早番の職員が利用者と一緒に清掃し、清潔が保持されている。室温は、利用者に合わせて設定し、職員が確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が、快適に自立した生活を送って頂けるように、障害物等の安全対策を行い、移動時の動線に配慮しています。浴室・トイレの貼り紙や居室扉の写真掲示等、ご利用者様にわかりやすいように工夫しています。		